

令和5年度 愛媛県がん診療連携協議会
第1回がん看護専門部会 議事録

開催日時 令和5年5月23日(火) 14:00~14:35 WEB会議
開催場所 四国がんセンターから発信
司会進行 がん看護専門部会会長 四国がんセンター看護部長 大西 玉美
出席者自己紹介(出席者はがん看護専門部会員)

開会の挨拶(大西部会長)

お忙しい中ご参加いただきありがとうございます。今日の欠席者は3名です。改めまして、部会長の大西です。一緒に本活動を盛りたてていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。また昨年度はコロナの感染状況を踏まえながら看護実践能力向上研修会を開催出来ております。各施設の企画委員をはじめ、研修の環境を整えていただいていることに感謝申し上げます。

本日は短い時間ですが、よろしく申し上げます。

議事内容

1. 幹事会及び役員会・専門部会報告

がん地域連携専門部会・PDCA部会のあり方が検討されており、今後組織の改編が行われるかもしれない。PDCA部会は廃止の方向で検討されており、各専門部会の活動では対応できない協議会の事業は、各部会長・各施設の有志が参加する幹事会ワーキンググループという形で検討していく。幹事会ワーキングに参加したい、または、この人は入れておきたいという場合は、自薦他薦となる。

長らくのWEB開催で形骸化しつつある協議会の活動の一体感を取り戻すこと、協議会全体の形を全施設の関係者に知っていただく必要があるという事から、来年2月の報告会は実開催を目指している。第2回がん看護専門部会は、定例では1月23日(火)を予定しているが、全体開催となるかもしれない。その場合は2月3日(土)、2月17日(土)で調整しており、決定次第お伝えする。

2. 令和5年度がん看護実践能力向上研修会について(資料1)

令和4年度はこの研修会が始まってから過去最高の受講者数となり、17名が修了した。令和5年度も引き続きがん看護実践能力向上研修会を開催していきたいと考えている。令和5年3月に、令和4年度第2回がん看護実践能力向上研修会の企画委員会を開催、そこで概ね令和5年度の研修企画について確認した。

1) 開催方法について

令和4年度から実習は、がんセンターか自施設かを選択して実施する形で進行しているが、令和5年度も同様の形式とする。

2) 研修企画書について

対象者は、経験3年目以上、臨床経験は2年あり、且つ、がん看護実践の経験が1年以上ある看護師とする。令和5年度も令和4年度と同様に開催する予定とした。

3) 日程について

令和5年度は、8月17日(木)を開講予定としている。その後、講義を4日間、実習は9月20

日から11月17日としている。四国がんセンターでの実習希望の場合は、10月10日から11月10日までの期間とし、実習期間は10月18日から11月2日の平日10日間とする。

昨年度の受講者から、自施設実習でも1回だけでも全員で集合したいという要望があり、今年度は、10月26日（木）中間評価会で四国がんセンターに集合する予定としたい。

その後、12月7日（木）に事例発表会と閉講式を予定している。研修の修了証発行は、12月7日までの受講をもつての発行を予定している。1月12日（金）と2月27日（木）の研修に関しては、修了証の発行には直接関係しないが、今年度の受講者は参加する予定としている。

4) 概要について

「令和5年度がん看護実践能力向上研修会 概要」を配布、受講者を募集する。現在、レポート提出に関する事項が未定となっている。研修日程（提出物も含めた予定）の11月29日（水）に事例発表用資料の提出としているが、昨年度の研修評価にフォローアップ研修でも資料の提出があった方がより深いディスカッションができるのではないかという意見があったため、それを追加予定としている。来週、企画委員と検討していきたいと考えている。

実習は、今年度もファシリテーターの協力を得ながら進めていきたいと考えている。令和4年度の研修では、自施設実習の施設にはファシリテーターを置き、実習期間である9月20日から11月17日の間に四国がんセンターとミーティングを行った。そこで、お互いの悩みを共有し検討できたことで、新たな視点でのサポートに繋げることができた。そのため、今年度も継続していきたいと考えている。

四国がんセンターより：コロナ感染症が5類となり、研修生が集合できる日を1日でも設けたいと考えている。そこで、10月の中間評価の時に、四国がんセンターでの集合を検討しているが意見はないか。→特に意見はなし。

3. がん看護専門部会活動周知のためのアンケート調査報告

本研修の目的は、『がん看護分野における臨床実践能力の高い看護師の育成を図る』ということであり、研修を受講したものが活動出来ていることは一定の評価があると思われる。

今回、アンケートの回答は2月6日から2月28日まで、回答数は98であった。役職をみると一般の方からも回答があり、看護師が46.9%と看護職が半数を占めていた。

質問5について、活動はがん看護実践能力向上研修会が主となり“知っている”が多いが、他の活動については“知らない”方が多かった。質問6、質問7については、半数近く知られていない。質問8について、毎年色々なアンケート評価をふまえて研修企画を検討しているが、今回、希望が多くあったのは、[ACPへの取り組み][高齢者のがん治療][がん患者の精神症状]等であり、その他多岐にわたり希望があった。

質問9について、『自施設のがん看護の質の向上、認定看護師・専門看護師等を目指す人たちの支援に活かされていますか』という質問に“どちらともいえない”が58.2%であった。自由記載の意見から、<活動は活かされている>と回答した人は、参加者が自施設のモデルとなり活動されているとあり、自施設の看護力の底上げにおいて評価されていると思われる。愛媛県内においては、必要な研修だと改めて考える機会となった。しかし、その反面<活動が活かされていない>と55人の回答があった。多職種への参加状況等の周知や、自施設においてどのような環境で活動できるのか等、管理者側の環境づくりに課

題があるのではないかとと思われる。

四国がんセンターより：当院は、専門や認定という次のステップへの育成に苦慮している。がん看護を学んで成長し、自施設で実践するのは勿論、後輩等へのモデルとなり看護力を高めていくことも重要であるが、更に興味を高めて次の専門や認定を目指してほしいと思っているが、なかなか結び付かない。がん看護の研修参加後、施設として各自が成長できるよう「こんな支援をしている」等の取り組みをされていることがについて意見を伺いたい。また、各施設の専門や認定という次のステップへ繋がるような支援についても意見を伺いたい。

・愛媛大学医学部付属病院

研修として、がん看護のコースを定期的に開催し、その中でがんに関心強い看護師を育成している。各認定者による勉強会を開催しているが、認定を目指したいと思えるようながん看護のコース研修を考えている。

・住友別子病院

がん看護以外の領域で4名が認定の研修に行った。研修受講後、4名のモチベーションも上がり活動意欲にも繋がっていることから、新しい認定研修に行かすことはすごく大切だと思った。

今年は特定行為研修に1人行ったが、院内で育成したい認定領域をアピールすることや、認定会を特定行為の看護師も参画できるように名前を変えて、今年から新たにスタートしようと思っている。新しい認定を育成できたことで組織の活性化に繋がることが実感できたので、専門や認定の教育に力を入れていきたいと考えている。去年、がん看護実践能力向上研修会に参加した1名は、認定を希望していたが不安がありこの研修を受講した。今後、認定を目指していけるよう支援したいと考えている。

・四国がんセンターより：モチベーションをもってという所が難しいところではあるが、がん看護実践能力向上研修会がその役割となり、次のステップに繋げてほしいという思いがある。それについて、何かいいアイデアはないか意見を伺いたい。

・松山赤十字病院

多くのものが研修を受講し次の認定等につながるところが難しいところであるが、新病院となり、専門性を高めるためにがんの病棟には研修受講者を集めた。各自が、その部署のがん看護の質の向上に向けて取り組んでおり、病棟の中で研修受講者が力を発揮してくれている。コロナが5類になったこともあり、対面の機会を増やす事でモチベーションがよりアップすると思う。それぞれの話をする機会を増やすことが、意欲向上につながると思う。

・四国がんセンターより：研修の修了式を通して、修了生から「この研修を受けてよかった」と伝わってくる。今回のアンケート結果からも、県内での成果・評価があることがわかった。しかし、それ以上に期待値も求められているのではないかと思う。今年度も活動しながら、皆様と色々な意見を持ち合い、2月に全体で相談させていただきたい。

閉会の挨拶（大西部会長）

コロナの感染症が5類となり試行錯誤しながらではありますが、部会の役割が果たせるよう今後も進めていきたいと思えます。今回の会議での意見も踏まえ、また、アンケートの件でも構いません、

ご意見を共有していければと思います。

次回は、全体会がなければ、令和6年1月23日（火）14：00からの予定です。

本日は、お忙しいところご参加いただきありがとうございました。以上でがん看護専門部会を終了いたします。